

平成18年度
[北海道赤レンガ建築賞]
情緒障害児短期治療施設



写真：藤本社介建築設計事務所

主 催

北海道・(社)日本建築家協会北海道支部・(社)北海道建築士会・(社)北海道建築設計事務所協会

ごあいさつ

「北海道赤レンガ建築賞」は、北海道における建築創造活動を促進し、建築文化の向上や地域に根ざしたまちづくりの推進などを図ることを目的として、地域社会の発展に貢献する創造性豊かな建築物等を表彰するものです。

第19回目となる平成18年度は、新たに建築関係団体との共催事業として、実行委員会を設けて運営基金を設立し実施いたしましたところ、全道各地から14作品の応募をいただき、その中から北海道赤レンガ建築賞に「情緒障害児短期治療施設」を、また、北海道赤レンガ建築奨励賞に「レンガの館および一連施設」を、それぞれ決定いたしました。

建築賞を受賞した「情緒障害児短期治療施設」(バウムハウス)は伊達市の郊外、太平洋を望む丘の上に建つ、子供たちが共同生活を営みながら心身の健康を回復するための施設で、厚生労働省が2010年までに、各都道府県に整備する方針としている北海道における最初の施設であり、平成16年度に北海道赤レンガ建築奨励賞を受賞した「精神障害者援護寮」(ちゅに)と隣接しております。

計画にあたり、従来の建築類型に頼ることなく、単一寸法の箱を一見ランダムに配置することで多様な空間をつくりだし、一人でいる場所、少人数で親密な時を過ごす場所、大勢でにぎやかに活動する場所を同時に獲得した新しいタイプの施設づくりに取り組みました。

子供たちの理想の家を関係者が一丸となって作りあげ、優れた個性と魅力を生み出した点が高く評価され、建築賞に選出されました。

一方、奨励賞を受賞した「レンガの館および一連施設」は、札幌市西区のJR琴似駅北口地区で実施された第一種市街地再開発事業により建てられた施設群で、「街を繋ぐ」、「時を繋ぐ」、「人を繋ぐ」というコンセプトのもと、この地域独自のまちづくりを目指して、長期間にわたる地道な努力を継続してこられました。

駅を中心に北口地区と南口地区の各種施設を空中歩廊で結び、そこで生活する人々の利便性を向上させたこと、「レンガの館」の再生や地元で活動する小劇団の拠点づくりなど、「繋ぐ」事業展開に、他にはない独自の工夫やまちづくりに取り組む姿勢が高く評価され、奨励賞に選出されました。

優れた建築物は、地域特有の風土と文化の創造に高い見識を持つ建築主、想像力と表現力が豊かな設計者、そして高い技術力をもった施工者が一体となって生まれるものであり、道民のかけがえのない財産となるものだと思います。

北海道赤レンガ建築賞が、意欲的な建築創造活動を促進し、地域社会の発展に寄与することを期待するとともに、受賞者のみなさまが今後ともますますご活躍されることを祈念いたします。

おわりに、実行委員、審査委員の方々をはじめ、協賛者、応募者のみなさま、また建築賞の実施にあたり、ご協力いただきました多くの関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

平成19年3月

北海道建設部長 野村 昌信



平成18年度 北海道赤レンガ建築賞

■ 趣 旨 ■

地域社会の発展に貢献する創造性豊かな建築物等を表彰することにより、本道における建築創造活動を促進し、健全な地域文化の発展と広く建築文化に対する意識の高揚を進め、もって、地域に根ざしたまちづくりの推進などを図ることを目的とする。

■ 表 彰 内 容 ■

- 北海道赤レンガ建築賞 1点 銘板、表彰状
 - 北海道赤レンガ建築奨励賞 数点 表彰状
- それぞれ、北海道知事が建築主、設計者、施工者を表彰します。

■ 募 集 対 象 ■

北海道内に建設され、平成18年3月31日までに竣工した建築物及び建築物群とします。
なお、竣工後の経過期間がおおむね3年以内の作品は応募の対象となります。
ただし、北海道（教育庁及び警察本部を含む）が建築主のもの及び個人の利用に限定されるものは除きます。

■ 募 集 期 間 ■

平成18年10月2日（月曜日）から平成18年10月31日（火曜日）まで

■ 応 募 作 品 数 ■

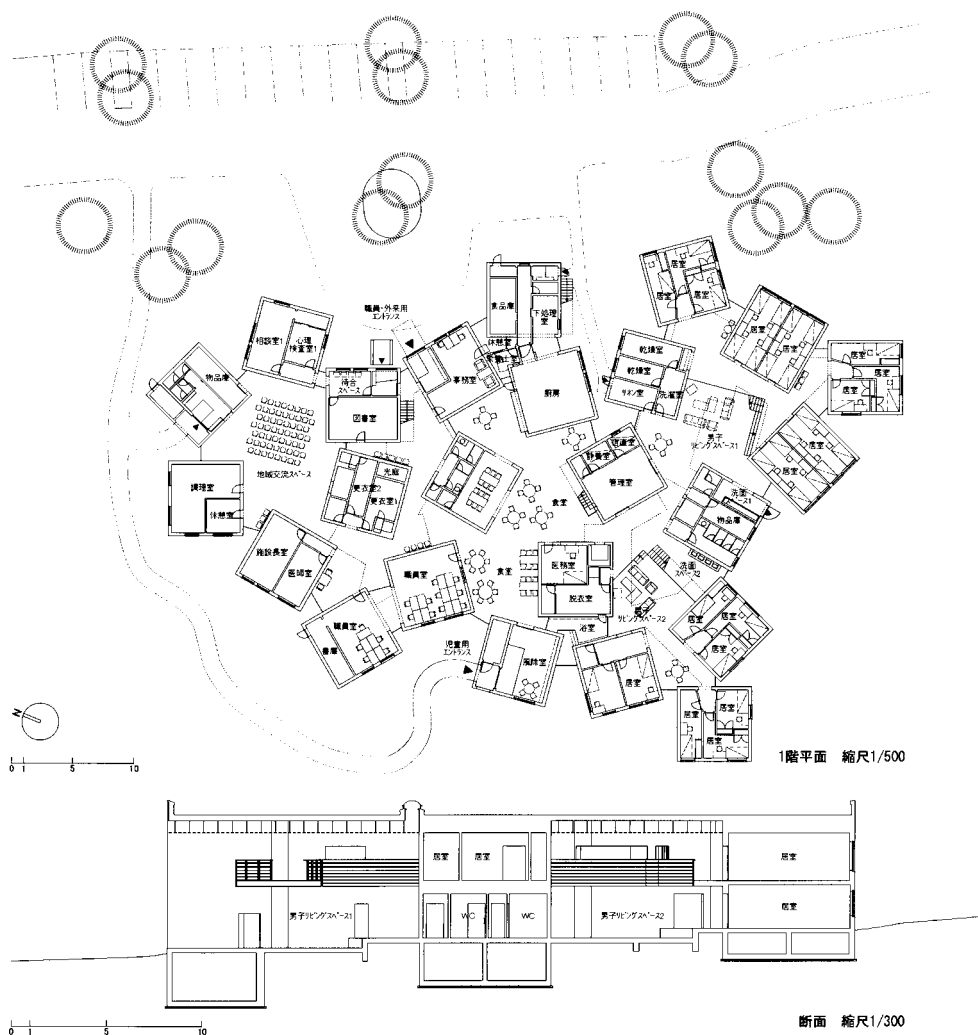
14作品

■ 審 査 委 員 会 ■

委 員 長 大矢 二郎 北海道東海大学 教授
副委員長 吉田 宏 (社)北海道建築設計事務所協会 会長
委 員 瀬戸口 剛 北海道大学大学院 助教授
委 員 早川 陽子 (社)北海道建築士会女性委員会 委員長
委 員 圓山 彬雄 (社)日本建築家協会北海道支部 支部長

平成18年度北海道赤レンガ建築賞受賞作品 情緒障害児短期治療施設

■ 作品名	情緒障害児短期治療施設
■ 建築主	社会福祉法人タラブ
■ 設計者	藤本壮介建築設計事務所
■ 施工者	清水建設株式会社北海道支店
■ 建築物の概要	所在地 伊達市松が枝街町2 4 3 番地 1
	主要用途 情緒障害児短期治療施設
	構造及び階数 鉄筋コンクリート造 2階建
	建築面積 1,604.62㎡
	延べ面積 2,536.49㎡
	竣工年月日 2006年3月15日



■企画の特徴(地域懇談会の開催等、特に配慮した点)

情緒障害児短期治療施設とは、さまざまな理由によって心に負担を負った子供たちが集まり、共に生活する中で徐々に自分たちの生活を取り戻していくための施設である。

厚生労働省が2010年までに全国全ての都道府県に情緒障害児短期治療施設を設置する方針を明らかにしたことを背景に、北海道初の施設として計画され、前進となる道立有珠優健学園の約50年の歴史と伝統を受け継ぎつつ、今までにない新しい施設のあり方が求められた。

■設計の特徴

情緒障害児短期治療施設には、大舎型と小舎型というふたつの対照的な型がある。大舎型は長い廊下に面した形で、大勢の子供の面倒を見やすい反面、スタッフと子供たちの関係が疎になりがちである。

小舎型は小さな住宅スケールの分棟型で、スタッフと子供たちの親密な関係を実現する一方、マンパワーが分散してしまう問題がある。ここでは小舎型の親密な空間の利点と大舎型の集約のメリットを両立して新しいタイプの情緒障害児短期治療施設を考えた。50人の定員を3つのグループに分け、それぞれに親密な大きさのリビングを与える。リビングは、個室群、トイレや洗面、そしてスタッフルームなどの5、6個の箱で囲まれた空間であり、それら3つのユニットを、スタッフルームをヒンジの中心として共有することで、2層にわたって組み合わせる。スタッフルームは1ヵ所に集約され、3つの適度な親密さの生活空間が分散して配置されるのである。機能的にはスタッフルームがひとつの中心となるが、しかし体験的には中心は決して視覚化されない。子供たちにとっては自分たちのリビングや個室が中心となるであろう。無数の中心を持つこの建物ならではの機能性である。

もうひとつの特徴は、このプランが必然的に持つ「隠れられる場所」である。箱と箱の間に生まれたイレギュラーなアルコーブは、リビングと連続しながらも文節された小さなスケールの場所である。ここで暮らす子供たちが何よりも他者との関係や距離感の回り方に敏感になっていることを考えると、離れていながら繋がっている関係によって自由な距離感の選択性と偶然性を両立したこの空間は、ひとつの原型になるであろう。

■施工の特徴(工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

構造は鉄筋コンクリート造を採用し、壁の仕上げは内外とも同様のアクリルリシン吹付けとしている。リシンの僅かな凹凸が、箱と箱のすき間やトップライトから差し込む外光を受け止めることで、繊細で柔らかな表情を作り出している。様々な角度に振られた壁面の織りなす風景は、これからも子供たちの日常に多様性と豊かさを与えることになるであろう。また、天井には手摺と同寸法のルーバーを、単一方向に揃えて設け、ランダムに配置された箱の存在感を強めている。ルーバーは塗装による反りを考慮し、MDF材を採用している。さらに、床には幅広のパイン材三層フローリングを、手摺には道産材トドマットをそれぞれ採用し、オイルステインで色調を整えてはいるものの、クリヤ系の仕上げに留めることで、漆喰調の抽象的な白い壁面に対して、木質特有の暖かさを付加している。

箱と箱の間の開口部は、堅枠を躯体にのみ込ませることで、上記のような壁面の素材感が内外に連続して感じられるよう配慮したのと同時に、ひび割れ誘発スリットとしての役割を担っている。

大変難しい施工内容ではあるが、非常に高い精度により実現されている。

■完成後の地域への貢献度など

情緒障害児短期治療施設は北海道初の施設であり、その構成の新しさから、医療・福祉業界においても注目を集めている。事実、入所している子供たちの症状も、以前に比べ随分と落ち着いたようである。また、隣接する精神科のミネルバ病院と、入所児童が通う星の丘小中学校との密な連携により、この地が「医療・教育・福祉」という三者のネットワークを全道全国に発信する拠点となればと願っている。

建築主 情緒障害児短期治療施設 **施設長** 宮地 迪彦

パウムハウスは北海道で初めての情緒障害児短期治療施設として誕生しました。北海道各地から、さまざまな課題を背負った子どもたちが集っています。心や体が傷ついた子どもたちにまず必要なのは、安全で安心感のある生活の場です。それぞれの子どもがホッと出来る居場所があり、それを見守る職員の眼差しが行き渡る生活空間でなければなりません。

山の上に、とてもユニークな夢の空間ができあがりました。真っ白な建物は、時間によって緩やかにその色を変えてくれます。その変化に心が和みます。この度の「赤レンガ建築賞」は、この上ない喜びであります。これからも、子どもたちが柔らかに癒され、ゆったりと回復への道を歩むことが出来るパウムハウスであり続けたいと願っています。

設計者 藤本壮介建築設計事務所 **代表** 藤本 壮介

この情緒障害児短期治療施設を設計するに当たって考えたことは、子供たちのための理想の場所を作り出すということです。ここは何よりも子供たちが普通に生活する場であり、一人にいるときもあれば、少人数での親密なときがあり、大勢でにぎやかに活動するときがあります。落ち着きと、楽しさと、広がり、感動を常に与えてくれる場所であるべきだと考えました。それは理想の家であり、理想の街です。そんな場所をいかに実現するのかを考えているうちに、このような不思議な建築になって行きました。この前例のない建物を、設計段階から支持していただき、一緒に作り上げてきた社会福祉法人タラプの皆さま、旧有珠優健学園の皆さま、パウムハウスのスタッフの皆さま、難しい工事を見事にやり遂げてくださった清水建設の皆さま、そしてその過程を評価してくださった審査委員の皆さまに感謝します。

施工者 清水建設株式会社北海道支店 **執行役員支店長** 白田 廣一

この度は平成18年度北海道赤レンガ建築賞受賞という荣誉に拝し、大変光栄に存じます。このような受賞の機会を賜り、主催団体の皆様、建築主の社会福祉法人タラプ関係者の皆様、設計者の藤本壮介建築設計事務所の皆様方に、心より感謝申し上げます。

この施設は複雑な平面形状で、施工に当たった弊社としても、とてもやりがいのある建物でした。竣工後、多様に配置された各ブロックの隙間から差し込まれた光が創り出すやわらかな空間の中、子供たちの喜ぶ顔が目に見え、改めて建設に携わったものとしての喜びを感じたものでした。

この北海道初の情緒障害児短期治療施設が、伊達市における「医療・教育・福祉」を核とした地域発展の柱の一つとして寄与されますことを心より祈念します。



写真：阿野太一



写真：阿野太一



写真：阿野太一

平成18年度北海道赤レンガ建築奨励賞受賞作品 レンガの館および一連施設

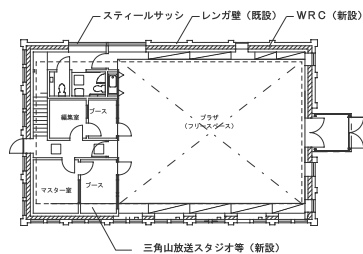
- **作品名** レンガの館および一連施設
- **建築主** JR琴似駅北口地区区市街地再開発組合
- **設計者** ドーコン・建邑社共同企業体
- **施工者** 株式会社奥村組札幌支店
- **建築物の概要**
 - 所在地 札幌市西区八軒1条西1丁目
 - 主要用途 集合住宅、商業・業務、駐車場
 - 構造及び階数 鉄筋コンクリート造 地上40階地下1階建
 - 建築面積 5,738.93㎡
 - 延べ面積 38,980.26㎡
 - 竣工年月日 2006年3月31日



レンガの館内部



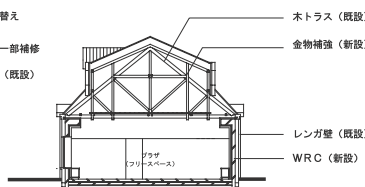
劇場内部



レンガの館 平面図



立面図



断面図

0 1 2 5m

□企画の特徴

計画地は、JR琴似駅の北口に面する約1 haの街区。鉄道の高架化や駅前広場整備を契機に、ここ数十年、駅南口側で一連の再開発事業が展開、駅北口側にもその勢いが波及し、再開発事業となった。この事業の最大の特徴は、計画地に残された古い建物の再生計画（レンガの館）や、計画地内の古い倉庫で文化的活動を繰り広げていた劇団の再誘致（コンカリーニョ）など、ソフトも含めた事業計画をつくり、単なる「街の更新」とは異なる街づくりを試みたことにある。

□設計の特徴

- ①「街を繋ぐ」一連の事業理念・街づくりの継承：南口側で展開してきた生活都心的な街づくりを継承し、集合住宅を核に生活関連施設を計画。住宅をタワー型とし、その周囲に緩衝帯としての低層商業施設および駐車場を分棟配置。日影や風害・圧迫感など周辺への影響を緩和。施設群は駅直結の空中歩廊で繋ぎ、雪国でも安心安全に生活できる街づくりを進めた。
- ②「時を繋ぐ」過去から現在、そして未来へ：計画地には昭和4年に缶詰工場として建造された建物、通称「レンガの館」があった。琴似の歴史を象徴する産業遺構として札幌市から都市景観重要建築物第1号の指定を受け、集会所として再利用。テナントとして地域ミニFM局の三角山放送に入ってもらい、施設の維持管理を委託する仕組みを考案した。
- ③「人を繋ぐ」地域に根ざす文化活動のサポート：開発前、レンガの館の裏側にあった石造倉庫では「コンカリーニョ」という劇団が、劇場不可の用途地域にも関わらずアングラ的に劇場運営をしていた。劇場を「生活支援型文化施設」と位置づけ、地域住民を対象に公聴会を開催。都市計画審議会を経て、用途制限緩和の許可を取得し、商業棟内に劇場を計画した。

□施工の特徴

- ①レンガの館の改修「保存」：部分掘削しながらの基礎補強、既存レンガ壁にRC耐震壁を一体打設した構造補強、金具と鉄骨による小屋組補強など、風合のあるレンガ壁やのこぎり型屋根の外観、木トラスが見える内観を損なわないよう配慮した。
- ②レンガの館の改修「再生」：四角い箱としてファニチャー的にセットされた放送スタジオの防音性、スチールフレームとガラスの風除室のシンプルな構成、レンガ壁が欠落した部分に新設されたコンクリート打放し壁の表情とスチール開口のシンプルな納まりなど、新しく付加する部分には敢えて現代的素材を用い、昔からそこにあったものと対比させた。
- ③劇場の新設：2層吹抜けの劇場は、暖房効率を考慮した床暖房の平土間のレベル精度、屋外のポーチ・広場に通じる大開口の扉の防音性などに配慮し、演劇に限らず幅広いパフォーマンスや地域イベントが可能な自由空間とした。

□完成後の地域への貢献度など

街区周囲は、既存樹を残しつつ道路拡幅と歩道状公開の空地を設定。各棟の隙間は広場や通り抜け路地とし、ロードヒーティングを整備。地域の人々も自由に往来できる敷地内通路となった。レンガの館は、普段は計画地および地域の方々が自由に使える集会所。三角山放送主催で積極的にリサイクルなどが開催されている。劇団は積極的に地域活動を行い、平成15年にNPO法人の認証を受けた。現在、北口II地区と琴似4・2地区で事業計画が進行中、「繋ぐ」街づくりが継続している。

建築主 JR琴似駅北口地区市街地再開発組合 理事長 宮坂 友子

JR琴似駅周辺の一連の再開発事業は、昭和62年駅南口地区における懇話会に端を発し、以来十数年に渡って継続してきた街づくりです。北口地区は平成8年地元の方々による懇話会から10年の歳月をかけて出来上がった事業であり、今回、北海道赤レンガ建築奨励賞という栄えある賞を受賞できましたことは誠に光栄であり、私共の進めてきた街づくり、永い歳月の積み重ねが評価頂けたものと感謝しております。

組合関係者・地域住民並びに諸機関の方々の御尽力に厚く御礼申し上げますと共に、今後も琴似・八軒地区に当事業の理念が継承され、益々発展していくことを願い、関係者各位の皆様のご理解ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

設計者 (株)ドーコン 代表取締役社長 柳川 捷夫
(株)建邑社 代表取締役 斎藤 守

人が住まう街であることが街の活力になるという理念のもと、「街を繋ぐ」「時を繋ぐ」「人を繋ぐ」のコンセプトを掲げ、十数年、琴似・八軒地区の街づくりに携わってきました。本事業においては、屯田開拓から農業・工業そして市街地へと変遷してきたこの街の歴史の一端を物語る産業遺構「レンガの館」や、地域で地道に文化活動を続ける劇団「コンカリーニョ」があり、それらについて空間の整備・提供から再生・再活動できる仕組み作りまで関わることで、地域に根ざした街づくりの大切さを再認識することができました。

今回の受賞は、事業に携わって頂いた全ての方々の賜物と感謝しつつ、琴似の歴史が後世に伝わり、街づくりがさらなる未来に繋がっていくことを願っております。

施工者 (株)奥村組札幌支店 執行役員支店長 武田 光

この度、北海道赤レンガ建築奨励賞を受賞しましたことは、施工者として大変光栄なことであります。札幌市都市景観重要建築物第1号の指定を受けた『レンガの館』の改修は「保存」と「再生」の考え方に合う施工上の配慮・工夫を実施し、再利用率ほぼ100%を実現した建物であり、また、周辺の施設を駅直結で繋ぐ『空中歩廊』は雪国の安全に配慮した全国的にも珍しい施設で、今後、JR琴似駅地区のシンボルとして、地域の皆様方の生活に貢献できる建物になるものと信じております。

この事業の施工に携わり、完成させることができたことに、建築主、設計者をはじめとする関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。



北海道赤レンガ建築賞「情緒障害児短期治療施設 バウムハウス」

伊達市の郊外、遠くに太平洋を望む丘の上に建つこの建築は、様々な理由で心に負担を負う子供たちが共同生活を営みながら心身の健康を回復するための施設で、小学生から高校生まで最大50名を受け入れることができる。社会福祉法人タラブが運営する施設全体は、受賞対象となった生活棟のほか、家族療養棟、体育館、グラウンドなどで構成されている。因みに、厚生労働省は2010年までに、児童福祉法に基づく同様の施設を各都道府県に整備する方針であり、本施設は北海道におけるその最初の事例となった。

バウムハウスでは、各々障害の所在やその程度、年齢の異なる子供たちが、互いに、あるいはケアをする医師、セラピスト、児童指導員といったスタッフと肌を接して、また時には、心理的・物理的な「距離」をとりつつ生活する。情緒というデリケートな障害を治療する現場では、おそらく「治療」と「生活」とは不可分のものであり、それだけに、日常の暮らしを包む環境が治療に及ぼす影響の大きさも容易に想像できる。

計画にあたり設計者は、従来の建築類型、すなわち大舎型（長い廊下に沿って部屋を配置する方式）か、小舎型（分棟方式）の二者択一に安易に頼ることなく、両者の長所を生かすべく新しいタイプの施設づくりに取り組んだ。

50名の定員を3グループに分け、各々のグループに親密なスケールのリビングスペースを与えた上で、中央部のスタッフルームを「扇の要」に1,2階に配置する。一見、24個の同寸の箱が不規則に散在しているかに思える平面の中に「見えない秩序」を潜ませることで、大舎型の効率性と小舎型の親密感を同時に獲得した。部屋の内部に立つとまるで樹林の中にあるような感覚に捉われる。一面に張り渡した白いスノコ状天井を通してトップライトから落ちる光はさしずめ林の木漏れ日か。様々な機能を単一寸法の箱に担わせる徹底した方針と、それらを一見ランダムに配置することで紡ぎだされる空間の多様さ。その対比がこの建築に優れた個性と魅力をもたらしている。

施設の性格上、医師を初めとするスタッフも当初から建築計画に多くの示唆を与えた。計画プロセスを通じて建築家との密度あるコラボレーションがあって初めて可能になる建築の形態であり、建築空間が人間の精神に深いところで影響を及ぼし得るとすれば、これはその好例といえるだろう。

建築主・設計者の意図を具体化する上で、施工者の精度の高い技術力が果たした役割も大きい。開口部の枠材を躯体にのみ込ませて内外空間の連続性を強調するなど、シンプルな空間を実現させるために払われた配慮が随所に読み取れる。

隣接する敷地に建つ精神障害者援護寮「ちゅに」（建築主・設計者は同じ）も平成16年度（第17回）北海道赤レンガ建築奨励賞を受賞しているが、今回の作品は、計画・デザイン面の独創性、洗練度において更に一步を進めたものと認められる。

北海道赤レンガ建築奨励賞「レンガの館および一連施設」

札幌市西区のJR琴似駅北口地区で実施された第一種市街地再開発事業により建てられた施設群で、約1.2ヘクタールの敷地に、地下1階・地上40階の住宅棟（218戸）、鉄骨造2階建ての商業・業務棟（約2900㎡）および駐車場（約4600㎡）をもつ。

「街を繋ぐ」、「時を繋ぐ」、「人を繋ぐ」というコンセプトのもと、この地域独自のまちづくりを目指して、長期間にわたる地道な努力を継続してきた関係者の強い意志と熱意は賞賛に値する。特に、駅を中心に北口地区と南口地区の各種施設を空中歩廊やカヴァードウォークで結び、北国で生活する人々の回遊性と利便性を向上させたこと、敷地内にあった昭和初期建築のレンガ造建物（200㎡）を改修・再生させ、「レンガの館」と名づけて地区の集会所やローカルなミニFM局のスタジオとして活用したこと、地元で活動する小劇団の拠点づくりを用途地域上の制約を克服し支援したことなど、ハード、ソフト両面における「繋ぐ」事業展開に、他にはない独自の工夫が見られる。

元・食品工場であった「レンガの館」は、純然たる組積造であったものを鉄筋コンクリートで補強しているが、素材であるレンガやガラスをほとんど従前のまま保存・再利用した点など、丁寧な施工にも見るべきものがある。

空中歩廊のやや閉鎖的なデザインや、局所的とはいえ、結果としての賑わい不足など、プランニングをデザインへ具体化する過程での問題点はいくつか指摘できるが、民間主導型事業の中で、都市的要素の空間的・時間的な連続性に配慮しつつ、まちづくりに取り組む姿勢は貴重である。隣接地区で現在進行中の再開発事業においても、こうした志向性がさらに洗練され、より高度な展開を見せることに期待して、北海道赤レンガ建築奨励賞を贈る。

（北海道赤レンガ建築賞審査委員長 大矢 二郎）

第1回実行委員会

●平成18年9月8日
事業計画、審査委員会の決定

第1回審査委員会

●平成18年9月26日
今年度赤レンガ建築賞募集要領及び実施スケジュールの決定

第2回審査委員会

●平成18年11月6日
審査委員の投票により、応募14作品のうち、4作品を現地審査対象として選考。

第3回審査委員会

●平成18年11月24日、12月7日・8日・9日・18日
審査委員により、4作品の現地審査を実施。

第4回審査委員会

●平成18年12月18日
審議の結果北海道赤レンガ建築賞に「情緒障害児短期治療施設」を、同奨励賞に「レンガの館および一連施設」を選考。

第2回実行委員会

●平成18年12月26日
事業結果報告

平成17年度北海道赤レンガ建築奨励賞応募作品リスト

「北海道赤レンガ建築賞」運営基金協力者

整理番号	作品名	所在地	建築主
		主要用途	設計者
		竣工年月日	施工者
1	札幌テレビ放送機・ニュース情報センター D・tera・s	札幌市中央区北1条西8丁目1-1 報道スタジオ 平成17年8月31日	札幌テレビ放送機(有)伊達計画所 鹿島建設機札幌支店
2	ふる里霊廟	札幌市南区薄野14番1他 霊廟(合葬墓) 平成17年12月31日	社中央公益札幌 機アーキ・プロジェクト 機オータカ建設
③	帯広市図書館	帯広市西2条南14丁目3番地1 図書館 平成17年10月31日	帯広市 機環境設計 萩原建設工業機他4社JV 宮坂建設工業機外3社JV
4	特別養護老人ホームこぶし増改築工事	岩見沢市志文町301番地 特別養護老人ホーム 平成17年12月15日	社会福祉法人 クビド・フェア ノーマライフ・道設計 共同企業体 機熊谷組
5	花月地区児童センター・花月保育所	滝川市花月町2丁目5番1号 児童福祉施設 平成18年1月31日	滝川市 機アキバ設計 笹木・神部JV外
6	噴火湾パノラマパーク パノラマ館	二世部八雲町浜松368-1 体育館 平成18年3月31日	噴火湾パノラマパークPFI機 清水建設機北海道支店、機アトリエアク 清水建設機北海道支店
7	しばた整形外科クリニック	帯広市西2条北1丁目2番地 診療所(整形外科) 平成16年10月31日	医療法人社団 しばた整形外科クリニック 一級建築士事務所 アトリエTARO 宮坂建設工業機
⑧	レンガの館および一連施設	札幌市西区八軒1条西1丁目 集合住宅、商業・業務、駐車場 平成18年3月31日	JR琴似駅北口地区市街地再開発組合 ドーコン・建邑社共同企業体 機奥村組札幌支店
⑩	JR函館駅	函館市若松町11-55 鉄道施設 平成15年10月2日	北海道旅客鉄道機 デンマーク鉄道会社、JR北海道、北海道日建設計、日本交通技術 機大林組・加藤組土建機JV
11	浄土宗 直行寺	小樽市緑1丁目23番8号 寺院 平成17年11月30日	宗教法人 直行寺 機アトリエブク 伊藤組土建機
12	札幌市立大学 (芸術の森キャンパス、桑園キャンパス)	札幌市南区芸術の森1丁目883番地 札幌市中央区北11条西13丁目 大学 平成18年2月28日	札幌市 機アトリエブク 地崎・田中・宮川・鴻池・中井聖JV(芸術の森) 東建・丸彦渡辺・石山・熊谷・田畑JV(桑園)
13	北広島市立西部小学校	北広島市輪厚507番地外 小学校 平成17年12月12日	北広島市 機アトリエブク 伊藤組土建機
⑭	情緒障害児短期治療施設	伊達市松が枝町243番地の1 情緒障害児短期治療施設 平成18年3月15日	社会福祉法人 タラブ 藤本社介建築設計事務所 清水建設機北海道支店
15	稚内市歴史的建築物「北緯45°」北のガラス館	稚内市港1丁目2205-6、2205-21 ガラス工芸室 平成18年3月31日	機副港開発 機岸設計事務所 石塚建設興業機

整理番号の丸印は第2回審査委員会で選考され現地審査を行った作品です。

区分	団体・会社名
団体	社団法人 北海道建築設計事務所協会
	社団法人 北海道建築士会
	社団法人 日本建築家協会北海道支部
	社団法人 北海道まちづくり促進協会
	北海道設備設計事務所協会
	社団法人 日本建築構造技術者協会北海道支部
一般有志	社団法人 日本建築積算協会北海道支部
	社団法人 建築設備技術者協会北海道支部
	社団法人 北海道建設業協会
	株式会社 スコーシャ (帯広市)
	萩原建設工業株式会社 (帯広市)
	株式会社 山内組 (更別村)
既受賞者	株式会社 ハウ計画設計 (札幌市)
	山謙工業株式会社 (札幌市)
	道庁建築職有志一同
	株式会社 アトリエブク
	株式会社 饒高組北海道支店
	株式会社 久米設計札幌支社
	株式会社 天内工務店
	大幸建設株式会社
	北洋建設株式会社
	株式会社 環境設計
	株式会社 北海道日建設計
	北海道東海大学北方生活研究所
	タカハタ建設株式会社
	株式会社 アーブ建築研究所
	有限会社 倉本たつこ建築計画室
	三井住友建設株式会社北海道支店
	株式会社 北海道岡田新一設計事務所
	伊藤組土建株式会社
	株式会社 山本理顕設計工場
	清水建設株式会社函館支店
大成建設株式会社札幌支店	
株式会社 アーキテクトファイブ	
株式会社 横河建築設計事務所札幌事務所	
はやかわ建築プロジェクト	
平尾建築事務所	
真永建設株式会社	
株式会社 日本工房	
北王コンサルタント株式会社	
株式会社 中山組	
有限会社 北海道建築工房	
小島建設株式会社	
株式会社 竹中工務店北海道	
株式会社 象設計集団	
株式会社 ネクスス	
株式会社 鴻池組北海道支店	
藤本社介建築設計事務所	
平口建設株式会社	
有限会社 ヒココニシ設計事務所	

これまでの受賞作品(北海道赤レンガ建築賞)

<p>第1回 昭和63年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>忠類ナウマン象記念館 [建築主] 忠類村 [設計者] ㈱アトリエブंक [施工者] ㈱銭高組</p>	<p>第7回 平成6年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>白金インフォメーションセンター [建築主] 美瑛町 [設計者] 北海道東海大学北方生活研究所 [施工者] タカハタ・清水共同企業体</p> 	<p>第11回 平成10年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>相原求一朗デッサン館 [建築主] 六花亭製菓㈱ [設計者] 高市都市・建築・デザイン／㈱大林組札幌支店 [施工者] ㈱大林組札幌支店</p> 	<p>第15回 平成14年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>札幌ドーム [建築主] 札幌市 [設計者] 原 広司+アトリエ・ファイ建築研究所・アトリエブंक特定共同企業体 [施工者] 札幌ドーム新設工事特定共同企業体(大成・竹中シヤール・ボヴィス・インク)</p> 
<p>第2回 平成元年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>アルファリゾート・トマム [建築主] ㈱アルファ・コーポレーション [設計者] ㈱ディーシービー／㈱観光企画設計社 [施工者] 大林・伊藤共同企業体</p>	<p>第8回 平成7年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>寿都町総合文化センター(ウイズコム) [建築主] 寿都町 [設計者] ㈱日本設計札幌支社 [施工者] 伊藤・五洋・大木・田中・板谷共同企業体</p> 	<p>第12回 平成11年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>鹿追町ピュアモルトクラブハウス [建築主] 鹿追町 [設計者] ㈱倉本たつひこ建築計画室 [施工者] 三井・宮坂一般共同企業体</p> 	<p>第16回 平成15年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>真駒内六花亭ホール店 [建築主] ㈱六花亭札幌店 [設計者] 古市徹雄都市建築研究所 [施工者] ㈱大林組札幌支店</p> 
<p>第3回 平成2年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>北見市立中央小学校 [建築主] 北見市 [設計者] 久米・アトリエブंक共同企業体 [施工者] 天内・小池・奥野・大幸・北洋共同企業体</p>	<p>第4回 平成3年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>本別町コミュニティーセンターステラプラザ [建築主] 本別町 [設計者] ㈱環境設計 [施工者] 中前・近藤共同企業体</p>	<p>第5回 平成4年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>恵庭市立図書館 [建築主] 恵庭市 [設計者] ㈱北海道日建設計 [施工者] 不動・伊藤・恵庭・郷土共同企業体</p> 	<p>第9回 平成8年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>本の森 厚岸情報館 [建築主] 厚岸町 [設計者] ㈱URB建築研究所 [施工者] 葵・影本特定共同企業体</p> 
<p>第6回 平成5年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>千歳市開基記念総合武道館 [建築主] 千歳市 [設計者] 久米・北栄特定共同企業体 [施工者] 地崎・協栄・山崎・田畑・常光特定共同企業体</p> 	<p>第10回 平成9年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>交流促進センター襟裳岬 風の館 [建築主] えりも町 [設計者] ㈱NHKエンタープライズ21／㈱Kパートナーズアーキテクツ [施工者] 清水・伊藤・国策特定建設工事共同企業体</p> 	<p>第13回 平成12年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>幕別町百年記念ホール [建築主] 幕別町 [設計者] ㈱北海道岡田新一設計事務所 [施工者] 伊藤・萩原・岡田・藤原・堂前特定建設工事共同企業体</p> 	<p>第17回 平成16年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>モエレ沼公園ガラスのピラミッド [建築主] 札幌市 [設計者] アーキテクトファイブ・横河特定共同企業体 [施工者] 伊藤・若倉・藤井・菱中・山崎特定共同企業体</p> 
<p>第14回 平成13年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>公立はこだて未来大学 [建築主] 函館圏公立大学広域連合 [設計者] ㈱山本理顕設計工場 [施工者] 大成・千葉・加藤・伊藤・澤田・田畑・三光共同企業体 清水・平林・徳・石井・和工・戸沼共同企業体</p> 	<p>第18回 平成17年度北海道赤レンガ建築賞</p> <p>国稀酒造建築群 [建築主] 国稀酒造株式会社 [設計者] はやかわ建築プロジェクト [施工者] 真永建設株式会社</p> 		

これまでの受賞作品(北海道赤レンガ建築奨励賞)

第7回 平成6年度北海道赤レンガ建築奨励賞

鹿追町民ホール・神田日勝記念館

〔建築主〕 鹿追町
〔設計者〕 ㈱日本工房
〔施工者〕 清水建設㈱北海道支店



第9回 平成8年度北海道赤レンガ建築奨励賞

ソメスサドル砂川工場

〔建築主〕 ソメスサドル㈱
〔設計者〕 ㈱倉本たつこ建築計画室
〔施工者〕 ㈱中山組



第12回 平成11年度北海道赤レンガ建築奨励賞

北広島芸術文化ホール・図書館

〔建築主〕 北広島市
〔設計者〕 道日建・道開コン特定共同企業体
〔施工者〕 芸術文化ホール:清水・伊藤・豊和特定共同企業体
図書館:飛島・地崎・広谷特定共同企業体



第16回 平成15年度北海道赤レンガ建築奨励賞

由仁町立由仁保育園

〔建築主〕 由仁町
〔設計者〕 ㈱アトリエンク
〔施工者〕 鴻池・川上経常建設共同企業体



第7回 平成6年度北海道赤レンガ建築奨励賞

厚岸味覚ターミナル“コンキリエ”

〔建築主〕 厚岸町
〔設計者〕 ㈱URB建築研究所
〔施工者〕 清水・葵・共和一般共同企業体



第10回 平成9年度北海道赤レンガ建築奨励賞

陸別保育所

〔建築主〕 陸別町
〔設計者〕 ㈱北海道建築工房
〔施工者〕 小島建設㈱



第13回 平成12年度北海道赤レンガ建築奨励賞

札幌メディアパーク・スピカ

〔建築主〕 札幌テレビ放送㈱
〔設計者〕 ㈱伊坂デザイン工房
〔施工者〕 鹿島建設㈱札幌支店



第17回 平成16年度北海道赤レンガ建築奨励賞

精神障害者援護寮「ちゅに」

〔建築主〕 社会福祉法人 タラブ
〔設計者〕 藤本社建築設計事務所
〔施工者〕 平口建設㈱



第8回 平成7年度北海道赤レンガ建築奨励賞

夕張たふれあい館+バスステーション

〔建築主〕 北海道空知支庁
〔設計者〕 北王コンサルタント㈱/北海道航測㈱
〔施工者〕 ㈱中山組/郷土工業㈱



第11回 平成10年度北海道赤レンガ建築奨励賞

六花亭釧路 春採店

〔建築主〕 ㈱六花亭釧路
〔設計者〕 ㈱竹中工務店北海道支店
〔施工者〕 ㈱竹中工務店北海道支店



第14回 平成13年度北海道赤レンガ建築奨励賞

上川町山手地区優良建築物等整備事業

〔建築主〕 層雲峡開発㈱
〔設計者〕 A・B・C・H・I共同企業体(㈱アーレックス、㈱アトリエンク、㈱シー・アイ・エス計画研究所、(有)ホルス計画室、アイ・エヌ・エー新建築研究所)、矢野シオ建築設計共同体
〔施工者〕 ㈱間組札幌支店、中山組



第18回 平成17年度北海道赤レンガ建築奨励賞

東学園こぐまの森プレイホールガリバー

〔建築主〕 学校法人 東学園 美晴幼稚園
〔設計者〕 有限会社 ヒココニシ設計事務所
〔施工者〕 山一建設株式会社



第8回 平成7年度北海道赤レンガ建築奨励賞

朝日町サンライズホール

〔建築主〕 朝日町
〔設計者〕 ㈱中原建築設計事務所
〔施工者〕 ㈱竹中工務店北海道支店



第11回 平成10年度北海道赤レンガ建築奨励賞

根室市水産研究所

〔建築主〕 根室市
〔設計者〕 ㈱大建設札幌事務所
〔施工者〕 五洋・三共特定建設共同企業体



第15回 平成14年度北海道赤レンガ建築奨励賞

高橋建設社屋

〔建築主〕 高橋建設㈱
〔設計者〕 ㈱象設計集団、高野ランドスケーププランニング㈱
〔施工者〕 ㈱ネクサス



